

湯を浴み、街を編む

ー 温泉で働く暮らし ー

Keywords

温泉 観光 地方地域
働き方 ワークেশョン



DZ17091 鈴木 啓大

1. はじめに

日本では1984年にJUNETによるインターネット運用が始まり、90年代後半から2000年にかけてYahoo!JapanやWindows、Google、Amazon.co.jpが始まったことでインターネットが普及した。2001年からは3G回線、2015年からは4G回線、2020年からは5G回線が普及し、オンライン化が急速に進行している。これにより、オフィスに通勤せずとも、どこにいても仕事ができる環境が整いつつある。観光地などの自然豊かな場所で、遊びながら仕事をする「ワークেশョン」も存在する。では、観光地に暮らす地元住民やテレワーカーや観光客の良い関係性とはどのようなものだろうか。

2. 研究背景

2.1 古民家改修プロジェクト

筆者は2020年6月より、長野県山ノ内町のテレワーク事業の一環として、古民家を町の関係人口の宿舎に改修する活動を行っている。ここまでの活動で学生が主体となって、改修後のデザインを提案からフローリングの貼りつけ、土壁の漆喰の塗装、風呂場のタイルの貼り替えといった施工に至るまでを体験した。その一方でこの建物を利用できるのはごく少数の関係人口のみであり、利用できない地域住民や観光客との関係性が希薄なのではないかという疑問や、果たして地域全体の活性化に繋がっているのかという不安が生じた。また、わずか数十万円の予算でやり繰りせねばならず、予算の都合によりいくつかの提案や施工を断念せざるをえなかった。

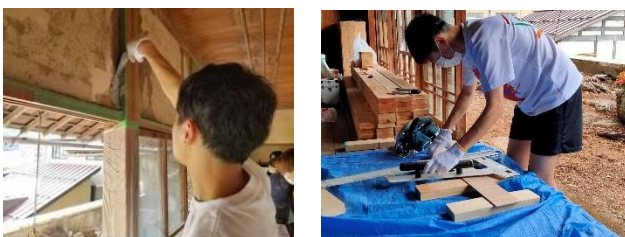


写真1・2 古民家改修の様子

2.2 働き方の変化

オンライン化が急速に進んだことによって、テレワークの重要性が高まった。さらにCOVID-19の影響により、

在宅勤務が推奨され、その流れはより一層顕著になっている。一方で、対面で直接会う機会が減少することで、社内での同僚との関係性を築くことが困難になっているという指摘がある。これは結果的に、生産性の低下に繋がるのではないかと。COVID-19の終息以降も、在宅勤務を続ける人は存在し、職場の同僚との関係性は希薄なままとなると考えられ、対策となる取り組みが必要となる。

2.3 観光地の疲弊

2007年の観光立国推進基本法の施行以降、日本は観光業の発展に力を注いでいる。とくに外国人観光客を増やす取り組みが行われ、その数は年々増加している。2019年の訪日外国人数は3188万人で、過去最多を記録した。その一方で、観光地のオーバーツーリズムが問題となっている。観光地にキャパシティー以上の観光客が訪れることで、交通渋滞やインフラの問題や環境破壊などがきっかけで地域住民と観光客のトラブルが起こっている。

3. 研究目的

観光地でのテレワークや企業研修などの新しい働き方を提案する。建築のセルフビルドを通じて、同僚とのチームワークの強化を目指す。ひいては観光地にそれを受け入れられる基盤を形成することで、地域の活性化を目指す。

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

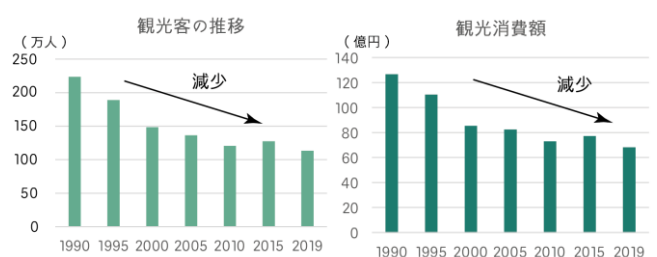


図1・2

長野県山ノ内町の観光客数と観光消費額の推移

長野県山ノ内町は、有名な志賀高原や湯田中渋温泉郷など、自然資源を中心とした観光が盛んな町である。2018年からはベンチャー企業”Shinonome”が町全体の地方創生事業を担っており、テレワーカーの誘致やワーケーションの推進の機運が高まっている。一方で年々、全体の観光客数と観光消費額は減少している。

4.2 敷地分析

(1) 渋温泉

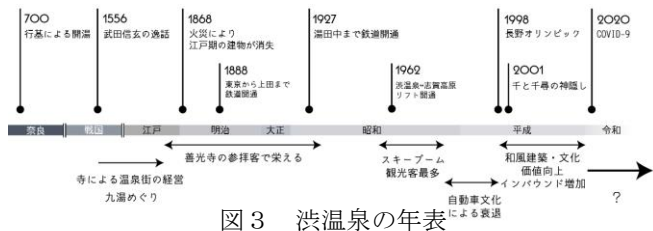


図3 渋温泉の年表

渋温泉は、1300年前に開湯された長い歴史をもつ温泉街である。いまなお昭和時代の建築が残る街並みは優美である。とくに金具屋旅館は国の文化財に指定されており、荘厳な外観から観光客の写真スポットとして賑わっている。映画「千と千尋の神隠し」(2001年公開・宮崎駿監督)に登場する湯屋のモデルとされている。9つの外湯を巡る”九湯めぐり”が人気であり、すべてを巡るとご利益があるとされている。9つの外湯のなかでも、渋大湯が最も人気であり、規模も最も大きい。

(2) マテリアルの混在

昭和時代から大工や地元住民の手によって、増改築を繰り返してきた土地であるため、様々なマテリアルの外壁が混在している。とくに路地裏に入ると、混沌した空間が広がる。具体的なマテリアルとしては、木材や石やトタンやコンクリートブロックなどがある。また、路地裏には温泉街ならではの、温泉を流す配管が縦横無尽に張り巡らされている。



図5 渋温泉に存在するマテリアル

5. 計画概要

敷地面積 敷地1 : 800㎡ 敷地2 : 800㎡

5.1 プログラム

(1) 詳細機能

●コワーキングスペース

- ・温泉 ・オフィス
- ・レストラン ・リラックススペース

延床面積 1,200㎡ 3階建て

●イベント施設

- ・温泉 ・イベントホール ・消防団事務所
- ・農園 ・スポーツコート

延床面積 800㎡ 1階建て



図6 用途ダイアグラム

5.2 設計趣旨

コワーキングスペースでは、テレワーカーが温泉に入りながら快適に働きつつ、観光客との交流が可能になる。また、イベント施設では観光客やテレワーカーが企業研修としてスポーツの利用ができるほか、地元住民が消防団のイベントや防災訓練を開催できる。企業合宿で訪れたテレワーカーが同僚とのチームビルディングとして、建物を利用しながらセルフビルドを行い、地元住民や観光客と交流しながら、建物を施工していく。

6. 終わりに

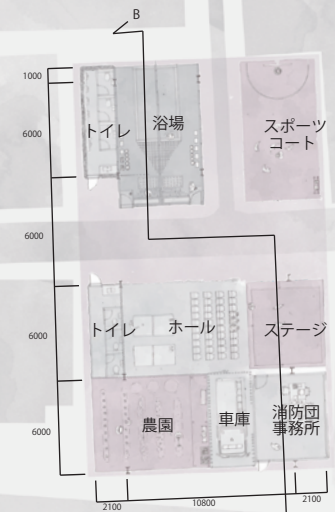
私は、たまたまのご縁で山ノ内町の事業に携わらせて頂いたことで、地方創生や関係人口やリゾートテレワークに興味を持った。

現在、進行している古民家改修プロジェクトから発展して、私の研究を実現することができれば、これほど嬉しいことはない。

参考文献

- 1) エリアリノベーション 変化の構造とローカライズ
編著：馬場正尊+Open A
- 2) まち建築 編：日本建築学会

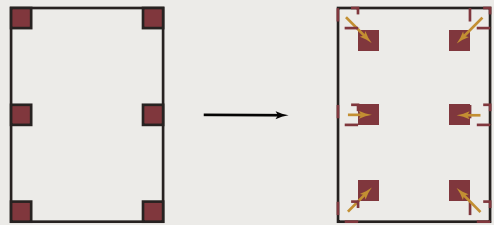
従来の街の動線はメインストリートを
行ったり来たりするだけだったが、
外湯を含む新たなふたつの建築を
建てることで回遊動線を生む。



N
配置図 1/500

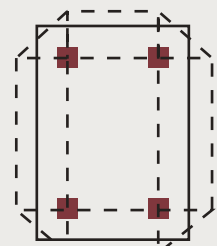


平面ダイアグラム

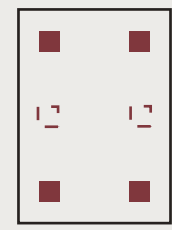


ふつうに柱の位置では
柱と同時に壁の位置が決まってしまう
外部との境界をセルフビルドできない

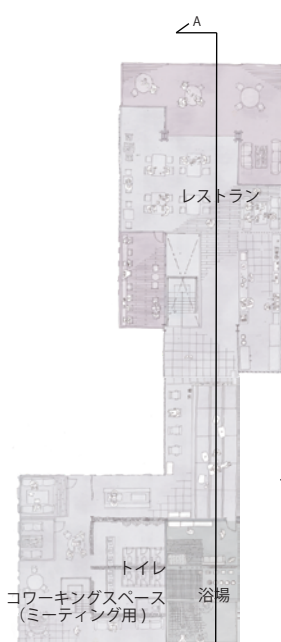
柱の位置を建物の中心にずらし
外部との境界をセルフビルドできるようになる



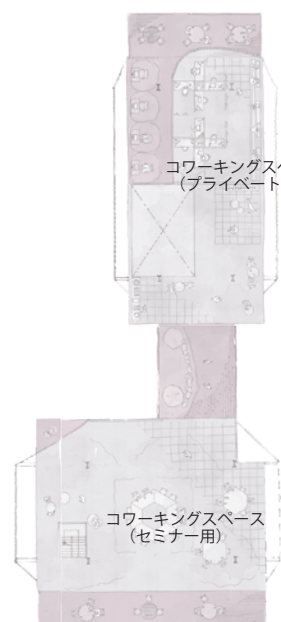
柱の本数を減らしたぶん
ロッドを使って構造を成り立たせる



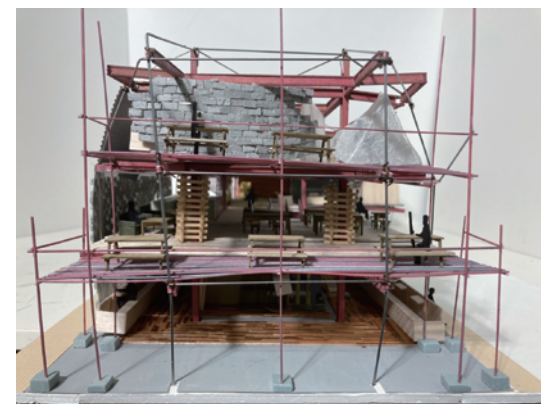
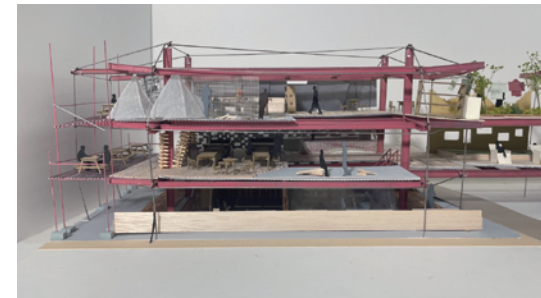
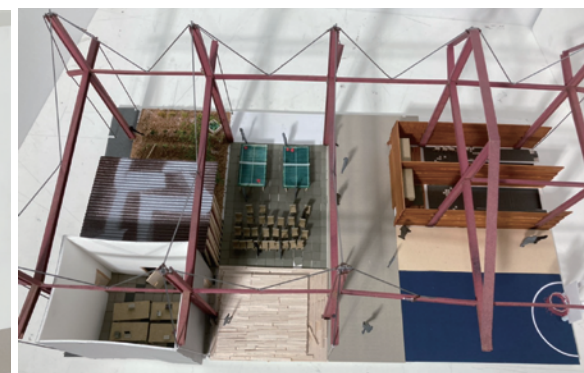
柱の本数をできるだけ減らす
セルフビルドの自由度が増し
作業できる余地が増える



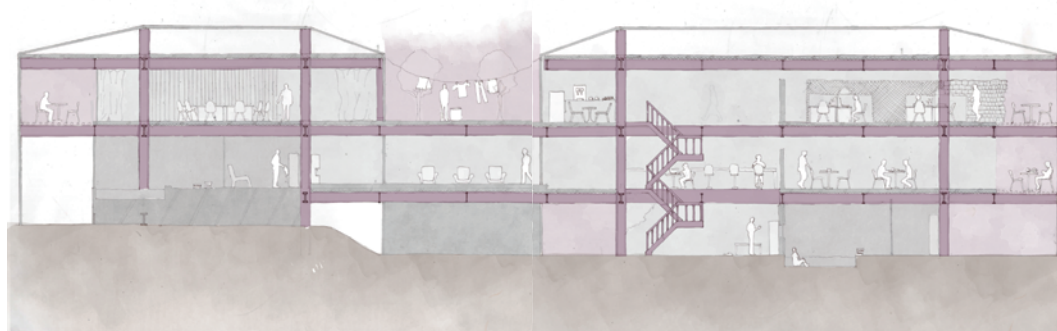
レストラン
トイレ
コワーキングスペース
(ミーティング用)
浴場
コワーキングスペース
2階平面図
1/500



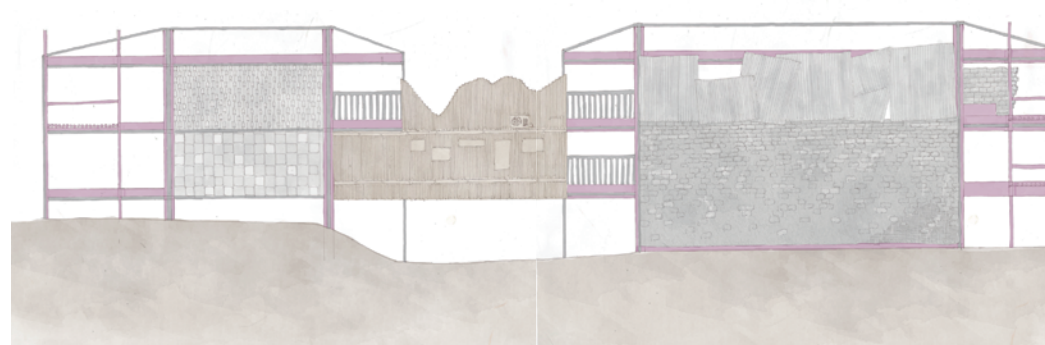
コワーキングスペース
(プライベート用)
コワーキングスペース
(セミナー用)
コワーキングスペース
3階平面図
1/500



コワーキングスペース

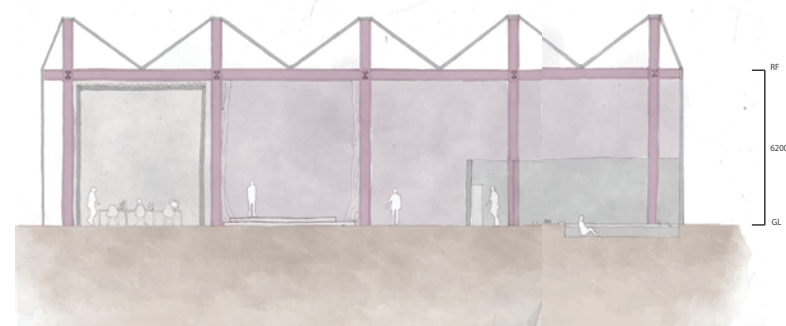


コワーキングスペース A-A'断面図 1/300



コワーキングスペース 南東立面図 1/300

イベント施設



イベント施設 北東立面図 1/300